

# ***BROADBAND GATE***

---

Linux エンジン搭載ブロードバンドルータ

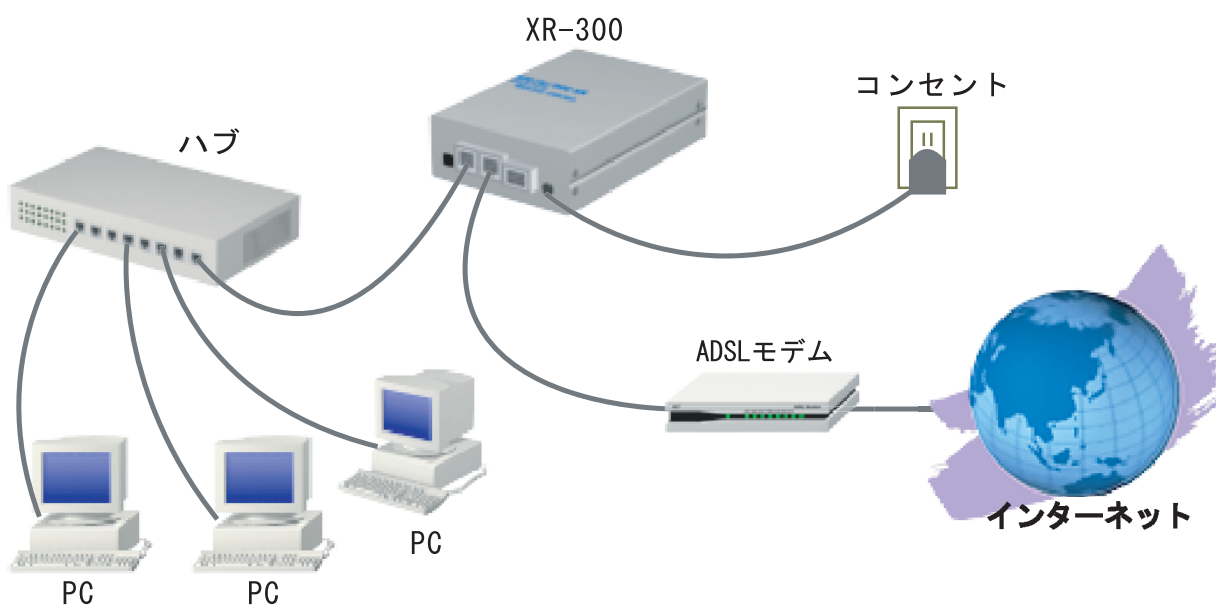
---

**FutureNet** ***XR-300***

フレッツスクウェア接続ガイド

## STEP0: ハードウェアの接続

XR-300 と ADSL モデムやコンピューターは、以下の手順で接続してください。



- 1** 本装置と ADSL モデムやパソコン・HUB など、接続する全ての機器の電源が OFF になっていることを確認してください。
- 2** 本装置の背面にある Ether0 ポートとハブを、ストレートタイプの LAN ケーブルで接続してください。
- 3** 本装置の背面にある Ether1 (XR-300/TX4 の場合は Ether1 ~ 3 のいずれか) ポートとケーブルモデムや、別セグメントの HUB 等を LAN ケーブルで接続してください。接続に使うケーブルの種類は、各機器の説明書等をご覧ください。
- 4** 本装置と AC アダプタを接続して下さい。(この状態では、AC アダプタをコンセントにささないで置いてください)
- 5** 全ての接続が完了しましたら、本装置と各機器の電源を投入してください。

## STEP1: 設定画面へのログイン

1 各種ブラウザを開きます。

2 ブラウザから設定画面にアクセスします。  
ブラウザのアドレス欄に、以下の IP アドレスとポート番号を入力してください。

**http://192.168.0.254:880/**

「192.168.0.254」は、Ether0 ポートの工場出荷時のアドレスです。アドレスを変更した場合は、そのアドレスを指定してください。**設定画面のポート番号 880 は変更することができません。**

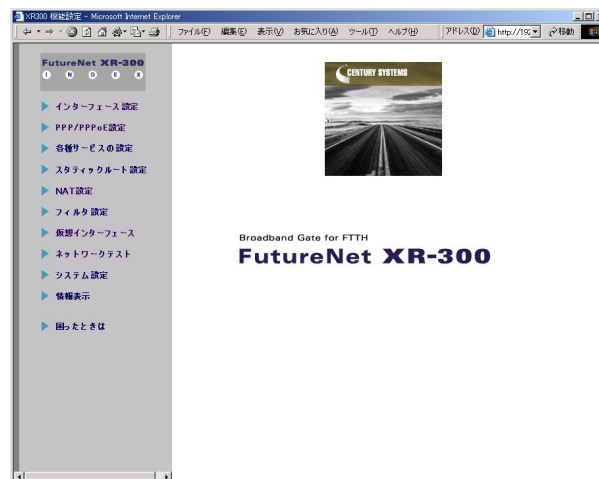
3 次のような認証ダイアログが表示されます。



4 ダイアログ画面にパスワードを入力します。  
工場出荷設定のユーザー名とパスワードはともに「admin」です。ユーザー名・パスワードを変更している場合は、それに合わせてユーザー名・パスワードを入力します。



5 ブラウザ設定画面が表示されます。



**[ ご注意ください! ]**

工場出荷時の設定では、Ether0 ポート以外のインターフェースではすべてステートフルパケットインスペクションが有効になっているため、Ether0 ポート以外のインターフェースからは設定画面にアクセスできないようになっています。

Ether0 ポート以外のインターフェースから設定できるようにするには、それぞれのインターフェースでパケットフィルタ設定が必要です。詳細はユーザーズマニュアルをご覧ください。

# STEP2: LAN側インターフェース設定

**1** 設定画面の「インターフェース設定」をクリックします。

**2** 「Ethernet ポートの設定」をクリックします。

### Ether0ポート(LAN側)の設定

Ether0ポート

固定アドレスで使用  
IPアドレス   
ネットマスク   
MTU

DHCPサーバから取得  
ホスト名   
MACアドレス

IPマスカレード  
(このポートで使用するIPアドレスに変換して通信を行います)

ステートフルパケットインスペクション

ポートの通信モード  
 自動  full-100M  half-100M  full-10M  half-10M

- ・「固定アドレスで使用」と「DHCPから取得」  
「固定アドレスで使用」を選択します。
- ・「IPアドレス」  
LAN側で使用するIPアドレスを入力します。  
<入力例> 「192.168.0.254」
- ・「ネットマスク」  
サブネットマスクを入力します。  
<入力例> 「255.255.255.0」
- ・「IPマスカレード」  
チェックを入れません。
- ・「ステートフルパケットインスペクション」  
チェックを入れません
- ・ポートの通信モード  
「自動」をチェックします。

Ether1ポート以降は初期設定のままにします。

**3** 入力が終わりましたら「設定の保存」ボタンをクリックし、設定を保存します。

## STEP3: プロバイダの設定

**1** 設定画面の「PPP/PPPoE 設定」をクリックします。

**2** はじめに、接続先の設定をおこないます。「接続先設定」1～5のいずれかをクリックします(5つまで設定を保存しておくことができます)。

プロバイダ名	<input type="text"/>
ユーザID	<input type="text" value="guest@flets"/>
パスワード	<input type="text" value="guest"/>
DNSサーバ	<input type="radio"/> 割り当てられたDNSを使わない <input checked="" type="radio"/> プロバイダから自動割り当て <input type="radio"/> 手動で設定 プライマリ <input type="text"/> セカンダリ <input type="text"/>
LCPキープアライブ	チェック間隔 <input type="text" value="30"/> 秒 3回確認出来なくなると回線を切断します 0秒を入力するとこの機能は無効になります
Pingによる接続確認	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する 使用するホスト <input type="text"/> 発行間隔は30秒固定、空欄の時はPAP-Gatewayに発行します
<b>UnNumbered-PPP回線使用時に設定できます</b>	
IPアドレス	<input type="text"/> 回線接続時に割り付けるグローバルIPアドレスです
<b>PPPoE回線使用時に設定して下さい</b>	
MSS設定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効(強制) MSS値 <input type="text" value="0"/> Byte (有効時にMSS値が0の場合は、MSS値を自動設定(Clamp MSS to MTU)します。最大値は1492。ADSLで接続中に変更したときは、セッションを切断後に再接続する必要があります。)

### プロバイダ名

任意で接続するプロバイダ名を入力できます(接続には関係ありません)。

### ユーザー ID

「**guest@flets**」と入力します。

### ユーザーパスワード

「**guest**」と入力します。

### DNSサーバ

「プロバイダから自動割り当て」をチェックしてください。

### IPアドレス

なにも入力しません。

### LCPキープアライブ

工場出荷設定のままがかまいません。

### pingによる接続確認

ここも工場出荷設定のままがかまいません。

### MSS設定

「有効」を選択します。「MSS値」は空欄のままにしておきます。

設定は以上です。MSS設定以下の項目は設定しません。

**3** 最後に「設定」ボタンをクリックしてください。設定はすぐに反映されます。

## STEP4: フレッツ回線の接続と切断

**1** 設定画面の「PPP/PPPoE 接続設定」をクリックします。

**2** 右画面の「接続設定」をクリックして、以下の画面から設定します。

### 接続設定

回線状態	回線は接続されていません
接続先の選択	<input checked="" type="radio"/> 接続先1 <input type="radio"/> 接続先2 <input type="radio"/> 接続先3 <input type="radio"/> 接続先4 <input type="radio"/> 接続先5
接続ポート	<input type="radio"/> RS232C <input type="radio"/> Ether0 <input checked="" type="radio"/> Ether1
接続形態	<input type="radio"/> 手動接続 <input checked="" type="radio"/> 常時接続
IPマスカレード	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
ステータフルパケット インスペクション	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
デフォルトルートの設定	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
IPsecの自動起動	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
接続IP変更 お知らせメール	<input checked="" type="radio"/> 送信しない <input type="radio"/> 送信する
お知らせメールの宛先	<input type="text"/>
お知らせメールの Fromアドレス	<input type="text" value="xx"/>

#### 回線状態

現在の回線状態を表示します。

#### 接続先の選択

どの**接続先設定**を使って接続するかを選択します。

#### 接続先ポートの選択

どのポートを使って接続するかを選択します。  
通常は「Ether1」を選択してください。

#### 接続形態の選択

「手動接続」PPPoE(PPP)の接続 / 切断を手動で切り替えます。

「常時接続」XR-300 が起動すると自動的に PPPoE (PPP)接続を開始します。

#### IP マスカレード

「有効」を選択してください。

ステータフルパケットインスペクション  
「有効」を選択します。

IPSecの自動起動  
「無効」を選択します

「IPsecの自動起動」以下の項目は設定しません。

**3** すべての設定が完了しましたら、「設定の保存」をクリックして、設定完了です。

**4** 最後に、画面最下部にある「接続」ボタンをクリックして接続を開始します。

「手動接続」設定にした場合は、「切断」「接続」をそのつど、手動で制御してください。

# STEP5: DHCP サーバ機能の設定

XR-300 が搭載している「DHCP サーバ機能」を使ってコンピューターへの IP アドレス登録を自動的におこない、インターネットにアクセスできるようにします。

以下の手順で設定してください。

ここで記載する設定内容は、Ether0 ポートの IP アドレスが工場出荷値の「192.168.0.254(24 ビットマスク)」であると仮定したときのもので、Ether0 ポートの IP アドレスを変更している場合は適宜、設定内容を読みかえてください。

### DHCP サーバ機能設定

- 1 Web 設定画面にログインします。
- 2 「各種サービスの設定」 「DHCP(Relay)サーバ」画面上部「DHCP サーバの設定」をクリックして、以下の画面で設定をおこないます。

#### サーバの選択

「DHCP サーバ機能」を選択します。

サーバの選択	<input checked="" type="radio"/> DHCPサーバを使用する	<input type="radio"/> DHCPリレーを使用する
--------	---	------------------------------------

#### サーバの設定

<input checked="" type="checkbox"/> サブネット1	サブネットワーク	192.168.0.0
	サブネットマスク	255.255.255.0
	ブロードキャスト	192.168.0.255
	リース開始アドレス	192.168.0.10
	リース終了アドレス	192.168.0.100
	ルータアドレス	192.168.0.254
	ドメイン名	localdomain.co.jp
	プライマリDNS	192.168.0.254
	セカンダリDNS	
	標準リース時間(秒)	600
	最大リース時間(秒)	7200

- ・サブネット  
「サブネット1」にチェックを入れます。

- ・サブネットワーク  
「192.168.0.0」を入力します。
- ・サブネットマスク  
「255.255.255.0」を入力します。

- ・ブロードキャスト  
「192.168.0.255」を入力します。

- ・リース開始アドレス / 終了アドレス  
DHCP クライアントに割り当てる最初と最後の IP アドレスを指定します(割り当て範囲となります)。「192.168.0.1」から 30 個の IP アドレスを自動割り当てとしたい場合、  
リース開始アドレスに「192.168.0.1」  
リース終了アドレスに「192.168.0.30」と入力します。

- ・ルータアドレス  
通常は XR-300 のインタフェースの IP アドレスを指定しますので、「192.168.0.254」を入力します。

- ・ドメイン名  
DHCP クライアントに割り当てるドメイン名を入力します。必要であれば指定してください。

- ・プライマリ DNS  
XR-300 は DNS リレー機能を搭載していますので、通常は XR-300 の IP アドレスを指定してかまいません。  
この例では「192.168.0.254」を入力します。

- 標準リース時間  
任意で設定します。

- 最大リース時間  
任意で設定します。初期設定では 7200 秒になっています(7200 秒以上のリース時間要求を受けても、7200 秒がリース時間になります)。

## STEP5: DHCP サーバ機能の設定

**3** 入力が終わりましたら「設定の保存」をクリックして設定完了です。

**4** DHCP サーバ機能を有効にするために、「各種サービスの設定」トップに戻り、「DHCP(Relay)サーバ」サービスを有効にしてください。

正常に起動すると、ステータスが「動作中」になります。

**5** 最後に、各コンピューターの IP アドレス設定を自動的におこなう設定にして、再接続してください。IP アドレス設定については、各 OS の取扱説明書をご覧ください。



XR-300 フレッツスクウェア接続ガイド

---

2002年12月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

2001,2002 CENTURYSYSTEMS, INC. All rights reserved.

---